

平成26年度 京都市立吳竹総合支援学校 後期学校評価アンケート結果分析

◎実施	平成27年1月							
◎方法	各項目について「実現度」を4段階で回答。							
◎回答率								
〔保護者〕	小学部	89.1% (49/55)	中学部	83.3% (30/36)	高等部	79.8% (71/89)		
	全	83.3% (150/180) (前期 82.8%)						
〔教職員〕	93.7% (119/127) (前期 74.8%)							
〔児童・生徒〕	小学部	21.8% (12/55)	中学部	25.0% (9/36)	高等部	69.7% (62/89)		
	全	46.1% (83/180) (前期 38.9%)						

◎分析結果

- ・保護者・教職員は、7点満点に換算し、全回答の平均値を記載
 (よく出来ている・・・7 大体できている・・・5
 あまりできていない・・・3 できていない・・・1)

【保護者】

質問項目	全校		小学部		中学部		高等部	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学校は、教育目標や方針をわかりやすく説明している。	5.7	5.6	5.9	5.7	5.8	5.4	5.5	5.5
家庭訪問やケース会などで、本人および保護者の願いを十分に聞いて、個別の包括プランに反映している。	6	5.8	6	5.9	6.2	5.7	5.8	5.7
家庭訪問やケース会などで、個別の包括支援プランをもとに学習内容や目標をわかりやすく説明している。	6	5.8	6	6	6.4	5.9	5.8	5.6
児童生徒が生き生きと主体的に取り組む授業や行事をしている。	5.8	5.5	5.9	5.6	5.8	5.5	5.6	5.4
児童生徒の興味関心や個性を伸ばす授業をしている。	5.5	5.4	5.5	5.7	5.6	5.8	5.4	5.1
挨拶や他人への気遣いなど、集団生活の基本に関する指導が適切に行われている。	5.7	5.5	5.5	5.5	5.6	5.4	5.8	5.5
健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われている。	6	5.7	6	5.6	6.1	5.8	6	5.7
通知表を見ると学習の成果がよくわかる。	5.8	5.7	5.7	5.9	5.8	5.6	5.9	5.6
学校は、児童生徒の実態に応じて交流及び共同学習を進めている。	5.3	5.1	5.3	5.2	5.4	5.3	5.2	5
学校は、地域の施設等と連携を取りながら地域での学習をすすめている。	4.9	4.8	4.7	4.8	5.2	5.3	5	4.5
教職員は児童生徒に適切な言葉遣いや対応をしている。	5.7	5.5	6	5.7	5.3	5.1	5.7	5.5
教職員は児童生徒のニーズに応じた適切な指導をしている。	5.7	5.4	5.7	5.7	5.9	5.2	5.7	5.4
学校は、学習や進路についてなど、いろいろな相談がしやすい。	5.5	5.4	5.4	5.4	5.8	5.2	5.6	5.3
学年だよりや学校だより、学校ホームページなどで学校の様子はよくわかる。	5.7	5.3	5.7	5.6	5.9	5.2	5.6	5.2
環境美化に関する取組が十分に行われている。	5.5	5.3	4.9	5.2	6	5.5	5.7	5.2
物品の整理・整頓や安全・事故予防に配慮されている。	5.6	5.3	5.3	5.5	5.8	5.5	5.7	5.2
学校は、省エネ、環境保護に取り組んでいる。	5.2	5.1	4.5	5	5.9	5.7	5.5	4.8

【教職員】

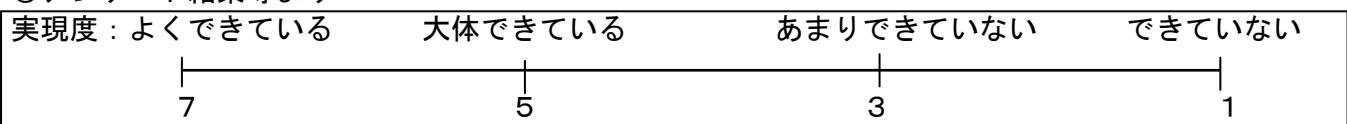
質問項目	前期	後期
保護者に、教育目標や方針をわかりやすく説明している。	5.3	5.1
家庭訪問やケース会などで、本人及び保護者の願いを十分に聞いて、個別の包括支援プランに反映している。	5.5	5.2
家庭訪問やケース会などで、個別の包括支援プランをもとに学習内容や目標をわかりやすく説明している。	5.4	5.4
児童生徒が生き生きと主体的に取り組む授業や行事をしている。	5.4	5.4
児童生徒の興味関心や個性を伸ばす授業をしている。	5.3	5.2
日々の学習活動において、挨拶や他人への配慮など、集団生活の基本について学習する機会を適切に設けている	5.6	5.6
健康維持や、体力づくりに関する取組を十分に行っている。	5.6	5.5
通知表は評価を適切な記述で保護者にわかりやすく記載している。	5.6	5
児童生徒の実態に応じて交流及び共同学習をすすめている。	4.9	4.9
地域の施設等と連携を取りながら、地域での学習をすすめている。	5	5.1
児童生徒に対して適切な言葉遣いや対応をしている。	5.4	5.4
障害理解のための研修に努め、児童生徒に対して適切な支援を行っている。	5.4	5.3
進路相談や教育相談など、保護者が気軽に相談できるように努めている。	5.1	5.1
各部、担当で広報方針・計画をたて、定期的に広報活動をしている。	4.6	5.2
環境美化に関する取組を計画的に進め、児童生徒とともに美化・清掃活動に取り組んでいる。	5.4	5.6
物品の整理・整頓や安全・事故予防に配慮している。	5.5	5.5
節電・節水、印刷物の精選等、省エネルギー、資源の有効活用に努めている。	5.1	5.2
学校経営方針や個別の包括支援プランに基づき、効果的な予算執行をしている。	5.3	5.2
車いす、座位保持装置等の点検を毎日行っている。	5	5
ユニットや行事の企画・立案時に評価基準を設定し、取組後すぐに評価している。	4.8	4.8
研修会やプロジェクト会議などに主体的に参加し、自らの指導力・専門性を向上させるための取組を行っている	5.4	5.3
児童生徒の社会参加と自立に向けて、効果的な支援を行えるよう、関係機関に働きかけている。	5	5.2
全教職員がセンター機能の趣旨を理解し、学校として活性化を図っている。	4.6	4.4
来客者への挨拶や丁寧な電話対応など、社会人としてのマナーに即した言動をとっている。	6.1	5.8
パスワードの設定やセンターサーバーに保存する等、セキュリティポリシーに基づき個人情報処理をしている。	5.9	5.6
服務規程を遵守し、公務員として厳正に服務についている。	6.1	6.2
業務を遂行するにあたって、教職員間の連携と協働を積極的に行っていている。	6.2	5.9

【児童生徒】

A : そう思う B : どちらかと言えばそう思う C : どちらかと言えばそう思わない D : そう思わない

質問項目	前期			後期		
	A	B	A+B	A	B	A+B
①わたしは、毎日学校に行くことが楽しい。	78.6%	12.9%	91.5%	75.6%	19.5%	95.1%
②先生はわたしの話や意見をよく聞いてくれる。	67.6%	26.5%	91.5%	77.9%	18.2%	96.1%
③学校の授業はわかりやすい。	76.5%	19.1%	95.6%	72.4%	23.7%	96.1%
④学校で学習したことは自分の役に立っている、	72.6%	22.6%	95.2%	73.6%	22.2%	95.8%
⑤先生は自分が努力したことや頑張ったことをほめてくれる。	82.4%	13.2%	95.6%	77.6%	15.8%	93.4%
⑥自分の作ったものが飾られたり、発表できたりしている。	56.3%	29.7%	86.0%	63.0%	30.1%	93.1%
⑦わたしは進んで挨拶をしている。	62.3%	29.0%	91.3%	65.4%	23.1%	88.5%
⑧わたしは友達と仲良くしている。	68.1%	21.7%	89.8%	76.9%	19.2%	96.1%
⑨わたしは身の回りのものを大切にしている。	58.2%	23.9%	82.1%	60.8%	29.7%	90.5%
⑩わたしは毎日掃除をして、学校をきれいにしている。	51.5%	28.8%	80.3%	54.7%	22.7%	77.4%
⑪わたしは電灯のスイッチをこまめに切ったり、水道の水を節約したり、省エネルギーに協力している。	45.3%	35.9%	81.2%	44.4%	36.1%	80.5%
⑫わたしは学校や社会のルールを守っている。	57.8%	21.9%	79.7%	56.9%	31.9%	88.8%

◎アンケート結果等より



*児童生徒アンケート

A：そう思う B：どちらかと言えばそう思う C：どちらかと言えばそう思わない D：そう思わない

【確かな学力について】

『結果』

- ・「わたしは、毎日学校に行くことが楽しい」の項目では、A+Bは前期 91.5%，後期 95.1%，「学校の授業はわかりやすい」の項目では、A+Bは前期 95.6%，後期 96.1%で、いずれも前期に比べて後期が高くなっている。(児童生徒)
- ・「児童生徒が生き生きと主体的に取り組む授業や行事をしている」や「児童生徒の興味関心や個性を伸ばす授業をしている」の項目では、前期に比べ後期のほうが実現度は下がっているが、大体できている数値にある。(保護者)
- ・授業参観日のアンケートでは「児童生徒はいきいきと活動していますか」と「児童生徒に応じた、学習内容が工夫されていますか」の項目では「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせて 90.9%だった。(保護者)
- ・「学校は、地域の施設等と連携を取りながら地域での学習をすすめている」の項目では、前期は 4.9、後期は 4.8 と他の項目に比べやや低い実現度である。(保護者)

『分析』

- ・授業改善や教職員間で児童生徒の情報交換を行うことで、一人一人に応じた対応をすることができてきているのではないかと考えられる。
- ・地域での新たな活動の場を広げるような取組も行い、地域での活動を行っているが、保護者に伝わっていないことがあると考えられる。

『改善策』

- ・引き続き、個に応じた活動に取り組むとともに、一人一人に寄り添った取組をしていきたい。
- ・ホームページを活用し、日々の学校での様子を発信していく。

【豊かな心について】

『結果』

- ・「わたしは友達と仲良くしている」の項目では、A+Bは前期 89.8%，後期 96.1%だった。(児童生徒)
- ・「わたしは進んで挨拶している」の項目では、A+Bは前期 91.3%，後期 88.5%だった。(児童生徒)
- ・「教職員は児童生徒に適切な言葉遣いや対応をしている」の項目では、実現度は前期 5.7、後期 5.5 だった。(保護者)
- ・授業参観日のアンケートでは、「指導者は、児童生徒に対して適切な言葉遣いをしていますか」の項目では「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせて 100%だった。(保護者)

『分析』

- ・協働学習などを通して、児童生徒同士が関わったり、力を合わせて活動したりすることを通して、友だちとの関わり方を学んだり、楽しさを感じたりしているのではないかと思われる。
- ・自分から挨拶をしにくかったり、挨拶を返しにくかったりする児童生徒もいる。

『改善策』

- ・挨拶はコミュニケーションの第一歩となるものであり、社会生活を円滑に送るためにも必要なものであるので大切にしていきたい。引き続き、日々の指導やあいさつ運動等の取組をしていく。

【健やかな体について】

『結果』

- ・「健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われている」の項目では、実現度は前期 6.0、後期 5.7 だった。(保護者)
- ・「物品の整理・整頓や安全・事故予防に配慮されている」の項目では、実現度は、保護者は前期 5.6、後期 5.3、教職員は前期、後期とも 5.5 だった。
- ・授業参観日のアンケートでは「校内は、児童生徒が活動しやすいように、整理整頓し、安全・事故防止に配慮されていますか」項目では「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせて 100% だった。(保護者)

『分析』

- ・個々の実態に応じて、保護者や整形外科医、PT、支援部の担当者等と相談しながら取り組んでいく。
- ・教室や校内の整理整頓に意識して取り組んでいる。

『改善策』

- ・引き続き、保護者や関係者と連携して取り組み、関係する教職員で情報を共有し、活動にいかしていく。
- ・児童生徒と共に、学習環境を整えていくようにする。

【情報発信・開かれた学校づくりについて】

『結果』

- ・「学年だよりや学校だより、学校ホームページなどで学校の様子はよくわかる」の項目では、実現度は前期 5.7、後期 5.3 だった。(保護者)
- ・「各部、担当で広報方針・計画をたて、定期的に広報活動をしている」の項目では、実現度は前期 4.6、後期 5.2 だった。(教職員)

『分析』

- ・定期的にお便りを発行したり、折に触れて、ホームページを更新したりしている。

『改善策』

- ・各学部や指導部専任から、授業や学校での様子などについてホームページを活用して発信していく。

【センター機能の強化について】

『結果』

- ・「全教職員がセンター機能の趣旨を理解し、学校として活性化を図っている」の項目では、実現度は前期 4.6、後期 4.4 だった。
- ・4~12月の教育相談件数は 84 件、研修等を含めたすべての相談件数は 179 件だった。

『分析』

- ・平成 25 年度の 4~12 月の教育相談件数は 79 件、研修等を含めたすべての相談件数は 151 件だった。

『改善策』

- ・支援部や育支援センターの取組について発信していくとともに、各学部や各部からも取組についても発信し、各々の取組を全校で共有できるようにしていく。